

救急蘇生法

【Cardiopulmonary Resuscitation】

担当責任者 教授(救急医学) 真弓 俊彦

ねらい

救急蘇生法は医学的知識の有無にかかわらず、すべての人が習得すべきもので、医学生になった初年度に、このカリキュラムを組んだのもそのためである。

心肺蘇生法を実施できる。ただし、医学専門教育を受ける前段階であるので、器具や薬品等は使用しない。

学修目標

1. 絶え間ない胸骨圧迫を早く(100/分~120/分)、深く(約5cm、6cmを超えない)実施できる。(Ⅱ-7)
2. 胸郭を毎回元に戻すことができる。(Ⅱ-7)
3. 人工呼吸は1回1秒で、過換気を避けることができる。(Ⅱ-7)
4. AEDを用いて安全かつ迅速に電気ショックを行うことができる。(Ⅱ-7)
5. 新型コロナウイルスに配慮した救急蘇生法を行うことができる。(Ⅱ-7)

事前事後学習の方法

講義について

1. 予習: 指定教科書をよく読み、予習課題を仕上げておくこと。
2. 復習: 復習課題をノートにまとめること。

実習について

1. 予習: 指定教科書をよく読みこみ、実技ができるように備えること。
2. 復習: 実技を振り返り、筆記試験に備えること。

成績評価方法・基準

1. 学習能力:最終試験 100点
2. 技術能力:スキルチェックシートによる技術評価 50点
3. 態度:各授業の参加による加算により各授業の配点 1回25点×2=50点(合計:50点)
4. 1・2・3の合計得点を2分の1とし、100点に換算し、ABCDFの5段階評価とする。

○教科書

日本救急医療財団「救急蘇生法の指針 2015 市民用」(ISBN-10 : 4892698830) (2020年版が出版されたらそちらを用いること)

○参考書

JRC蘇生ガイドライン2015 (ISBN-10 : 4260025082)

講義:2301講義室
実習:体育館(予定)

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者	
				大項目	中項目	小項目		
R3.10.6	水	7・8	救急蘇生法(歴史と総論)	(※)	F	3	5	真弓 俊彦
10.13	〃	〃	小グループによる実習	(※)	〃	〃	〃	全教員
10.20	〃	〃	〃	(※)	〃	〃	〃	〃
10.27	〃	〃	〃	(※)	〃	〃	〃	〃
11.10	〃	〃	〃	(※)	〃	〃	〃	〃
12.8	〃	3・4	筆記試験		〃	〃	〃	真弓 俊彦